

りゅうおう

議会だより

No.200
2022年8月1日
滋賀県竜王町議会

竜王新古今八景
三ツ山古墳群
(山面老々塚古墳)

権力を求め、心の安寧を望み、
先端技術を競った証。町内の古墳や史跡

- 定例会報告 P2～ 新型コロナウイルス感染症対策について
- 委員会報告 P4～ 竜王小学校建設基本計画について
- 一般質問 P7～ ふるさと納税の取組について

主な質疑応答

6月定例会

6月定例会が6月2日から21日までの20日間の会期で開催されました。条例案件4件、一般会計補正予算2件、特別会計補正予算2件、工事請負契約締結2件、人事案件1件が上程され、原案どおり全員賛成で可決しました。

令和4年度一般会計
今回の補正額 **1億7,373万円**
予算総額 **69億273万円**

主な内容(事業)



コロナ関連対策費
6,271万円



DX推進経費
1,318万円



ふるさと納税活性化経費
2,068万円



企業誘致実施可能性調査業務委託料
495万円



中心核整備文化財発掘調査経費
1,020万円

ふるさと納税活性化事業

問 道の駅に設置される予定のタブレットは今回の補正予算に含まれているのか。また、活性化業務委託料の成果をどのように捉えるか。

答 タブレットの設置は多額の費用を要しないため、今回の補正予算には含まれていない。

問 当初予算内で2台を窓口に設置する予定。調査研究費は100万円を充て、残りの400万円をプロポーザル等のアイデアを具現化する費用に充てる予定。寄付額の増加を成果と考えている。

問 今年度の目標額は。

答 ふるさと納税は近年2億円前後で推移している。令和4年度は、3億円を目標にしている。

中心核整備に係る埋蔵文化財発掘調査事業

問 埋蔵文化財調査について、試掘と本掘の違いとスケジュールは。

答 試掘は令和3年度に実施している。本発掘調査は、小学校建設予定地と調整池で、令和4年12月まで発掘調査を実施する予定。実際に遺構が出てきたら破壊行為になるので記録を残すことになる。

企業誘致実施可能性調査事業

問 企業誘致実施可能性調査業務の内容は。

答 新たな産業用地確保を検討している。新たな土地が産業、企業誘致に適しているかという実現可能性を調査する。

新型コロナウイルス感染症対策

- ①住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業 **1,306万円**
- ②子育て世帯生活支援特別給付金事業 **1,200万円**
- ③割引クーポン券による消費拡大(町独自施策) **3,300万円**

ワクチン接種(4回目)開始

- 対象者** 3回目接種から5か月が経過した①・②の人
 - ①60歳以上の人(約3,700人)
 - ②18歳以上で基礎疾患を有する人、重症化リスクが高いと医師が認める人
- 実施方法**
 - 集団接種 竜王町公民館にて7月18日(月)～9月21日(水)
 - 個別接種 町内5医療機関にて7月9日(土)～(医療従事者は7月2日より先行接種)
- 問合せ先**
 - ◆竜王町ワクチン接種予約センター(平日9時～16時)
 - 電話:①090-2553-0567 ②090-3313-0567 ③090-8750-0567

教育民生常任委員会

調査 竜王小学校建設基本計画について

◇竜王小学校建設基本計画策定の背景と目的

- *平成23年12月定例会では、昭和46年に建築した竜王小学校が築40年となる中、将来的な費用対効果も考慮し、10年後を目途に建て替えることを町方針として決定した。これを受け、平成24年度から平成25年度にかけて小規模改修を実施した。
- *平成29年度より教育施設の今後のあり方検討内プロジェクトチームを立ち上げるとともに、保護者、校長、地域住民、学識経験者等11人の竜王町教育施設の今後のあり方検討委員会を設置。平成31年2月に長寿命化改修ではなく、建て替えとして考える等の方向性と竜王小学校建設のコンセプトをまとめ、町長に報告された。
- *令和2年8月、中心核整備基本計画との調整や連携を図りながら、竜王小学校整備基本構想を策定
- *「竜王小学校建設基本計画」の策定にあたっては、校長、学校運営協議会、保護者、地域住民、学識経験者等10人で竜王小学校建設基本計画策定委員会を設置して検討のもと進められた。

◇竜王小学校の整備のコンセプト

～竜王らしく キラリと輝く 『地域とともにある学校』 づくり～

◇竜王小学校の整備の基本目標

- あたたかさやさしさのある学校 ●学びがつながる・広がる学校 ●地域とともにある学校

◇竜王小学校建設基本計画策定委員会

- 令和3年7月より竜王小学校基本構想、学校施設視察、施設配置ブロック、基本構想のコンセプトに基づく小学校整備等の検討を行い、令和4年3月29日に「竜王小学校建設基本計画（案）」を決定。

主な質疑応答

- 問** 基本計画を策定してスケジュール的には、どのように進んでいくのか。また、議会の意見はどのように反映されるのか。
- 答** 基本計画をもとに議会の意見を加えて、今年度中に基本設計を実施する。令和5年度は実施設計の予定。



ワークスペースの参考



内装の木質化の参考

報告 新たな竜王こども園の現状について

こども園開園の経過および開園から現在までの子ども達の状況について説明を受けた。

総務産業建設常任委員会

調査 竜王バイオマス産業都市構想について

国が公募する「バイオマス産業都市」に応募する予定で令和4年12月から令和5年1月頃に「バイオマス産業都市」に選定されれば、滋賀県内初となる。

主な質疑応答

- 問** 先進地はあるのか。また、プラントの臭気の問題が大きいと、臭気対策や廃棄物の影響についてはどうか。
- 答** 先進地については、山形県のガスの発電所に県と町で視察に行った。臭気対策については、民間事業者が運搬中に臭いが充満しない運搬方法を考えておられ、詳細をこれから詰めていく。圃場については、堆肥の成分等の分析調査などを行い、議論していく。

調査 地域コミュニティ維持・活性化に関する取組について

竜王町の現状

竜王町の人口は、2035年には9,891人まで減少し、65歳以上が3,295人で生産年齢人口（15歳～64歳）は、5,538人まで減少すると予想されている。

これまでの取組

タウンミーティングや町民意識調査、地域支えあいしくみづくりモデル事業を実施する中で、竜王町に適した地域コミュニティを考える必要性を確認された。

町としての考え方

- *自治会と行政で町が解決すべきことの検討
- *自治会と区民で自治会が解決すべきことの検討
- *自治会と自治会とで連携して解決すべきことの検討



地域自治組織のあり方検討研修会の様子

今年度の取組（予定）

1. 行政から自治会への依頼ごとの棚卸
2. 課題解決に先進的に取り組んでいる事例の収集整理
3. 学びの場の提供として町職員や自治会長等を対象とした研修会を開催
4. 住民と行政で組織する意見交換会（今後、自治会を担う世代、自治会OB等）

主な質疑応答

- 問** 地域コミュニティの活性化の取組なのか、人口減少を食い止めるための取組なのか。
- 答** 両方に係る取組である。大事なことは地域で安心して暮らせること。現在は、65歳以上世帯が増えている。安全に暮らし続けるサポートは必要である。地域の人を支えていくために自治会などの枠組みは残していきたい。

町政 ここを問う!

6月定例会では10議員が
16問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
8	尾川幸左衛門議員	・里道の舗装について
	大前セツ子議員	・若者世代の定住で「活力あふれるまちづくり」を進めるために
9	橘せつ子議員	・中心核整備のあり方について ・地域交通としての「チョイソコリゅうおう」は
10	磯部俊男議員	・アグリパーク竜王、妹背の里のふるさと納税対策について ・新型コロナウイルス感染症対策について
11	小西久次議員	・通学路のあり方について ・今後の竜王町農業のあり方は
12	鎌田勝治議員	・職員のモチベーション向上について
	福田優三議員	・竜王小学校新築移転に伴う基本設計について
13	澤田満夫議員	・滋賀ロケーションオフィスを通じて竜王町の魅力発信を ・滋賀竜王工業団地の多目的広場の活用について
14	森島芳男議員	・ふるさと納税の取組について ・IBMグラウンド跡地の現在の状況について
15	中村匡希議員	・指定管理者に対する行政の監督指導のあり方について ・竜王町のローマ字表記を“Ryuo”に統一する必要性について

各議員のQRコードをスマートフォンで読み取ると音声配信が聴けるよ



近江うし丸

次回の一般質問は
令和4年9月20日(火)予定

議員の質問順は町ホームページでご確認ください。

問 議会事務局 電話 0748-58-3713

地域活性化特別委員会

調査 滋賀竜王工業団地の進捗状況、現地視察について

- ◇本委員会は6月13日に滋賀竜王工業団地の進捗状況および稼働状況等の説明を受け、その後、現在操業中および工事中の現地視察を行った。(エリーパワー(株)、東洋電機製造(株)は、未視察)
- ◇現地視察
 - ・工場見学：サクラ食品工業(株)
 - ・工事現場確認：ヤマサ醤油(株)、滋賀トヨタ自動車(株)、富士色素(株)、SMC(株)



現地視察の様子

主な質疑応答

問 東洋電機製造(株)、サクラ食品工業(株)における竜王町内の従業員数は何名か。

答 正確な人数は、流動するので把握できない。産業振興奨励金の交付条件は竜王町内在住の人を5名以上雇用している企業としており、現在、東洋電機製造(株)に町内従業員が9名おられる。サクラ食品工業(株)については、産業振興奨励金の申請がされていないため、分からない。

議会 ICT 化特別委員会

設置 議会 ICT 化特別委員会の設置について

- ◇昨今の資源意識の高まりとペーパーレス化の普及、またICT(情報技術通信)機器を用いた業務効率化が進む社会的背景から竜王町議会においてタブレット等のICT機器の導入を検討する必要性が高まっています。
- 計画や予算を審議する立場である竜王町議会においても、これらICT化と歩調を合わせ、ならびに率先してこれを推進する立場としてタブレット端末等の電子機器の導入による議会活動の向上や効率化を調査・研究する必要があり、議会ICT化特別委員会の設置をします。

委員長 中村 匡希 副委員長 鎌田 勝治
委員 福田 優三 委員 橘 せつ子 委員 尾川 幸左衛門



橋 せつ子 議員

問 中心核整備のあり方について財政面は

答 安定的な維持をめざし、健全な財政運営に努める

① ①コンパクトシティ化構想全体の費用や、中・長期の財政計画も示されないまま、中心核整備費用は約55億円の予定で、今後約35億円の起債を発行（30年返済）する計画であるが、この計画を進めることで町財政が逼迫し、生活や教育・福祉予算が削減されないか。

② コミュニティセンターと防災機能を兼ね備えた学校とは。コミュニティセンターの概要・内容と竜王町公民館の関係は。防災の機能はどのくらいの備えになるのか。

① 年度ごとの税収額が変動する可能性はあるが、教育・福祉、他の事業等も安定的に維持できるように（安易な圧縮はせず）、健全な財政運営に努めていく。

② 小学校にコミュニティ



センターや公園を近接し、連携することで防災力の向上を図る。具体的には体育館に防災倉庫の設置、太陽光発電や蓄電、非常用電源また受水槽等を検討する。コミュニティセンターは避難場所（要配慮者等）とともにボランティア活動の拠点に、また平時は地域コミュニティの維持・活性化の支援拠点に考えている。開所は令和9年度予定であり、町公民館機能を持たせていくのか、今後検討する。

① 提案内容の実現には、乗務員の確保やオペレーターセンターの町独自運用が必要となるが、これは町の負担増や運賃値上げに繋がるため、確実な利用者の増加が見込めないと判断が難しいと考える。

① 利用者の方から「使っていて困っている。特に帰りは予定が立てにくい」「予定時間に帰ってこれない」等の声が出ている。現行システムを抜本的に見直し、利用者を増やす対策が必要では。運行時間の延長、土日の運行、車両台数を増やす等、高齢者だけでなく、子どもや中高生の利用も考えるなど工夫が必要では。



チョインソコリゅうおうの車輛

運行利用者を増やす対策として本年度から運行と継続的に検討していきたい。



尾川 幸左衛門 議員

問 里道の舗装について

答 損傷個所が増加することから、より活用しやすい補助制度のあり方の調査研究を行う



損傷の激しい里道

① 各集落内には、町道以外の道路として里道がある。現在、里道の舗装は、数十年が経ち劣化が著しいところがある。しかし、この舗装の補修に多額の費用を要するので自治会の費用負担が大きく、町の補助で、できる制度を作れないのかを伺う。

② 町としては、里道修繕の補助制度として、「竜王町未来へつなぐまちづくり交付金」を活用していただくようにしている。里道の修繕については、毎年いくつかの自治会において活用していただいている。しかしながら地域の課題は、様々であり各自治会においては優先順位をつけて取組まれているので、里道の舗装修繕に、多くは活用されていない状況である。今後、舗装の劣化が進むことが予想されることから、より活用しやすい補助制度のあり方について他の自治体の例も参考にしつつ調査研究を行う。

問 若者世代の定住で「活力あふれるまちづくり」を進めるために

答 滋賀竜王工業団地、滋賀山面工業団地全進出企業に町民の雇用促進を依頼



大前 セツ子 議員



滋賀山面工業団地



滋賀竜王工業団地

① 令和3年4月から第六次竜王町総合計画がスタートした中「活力あふれるまちづくり」として地域産業の発展や利便性の高い生活環境づくりに向けに進められている。

② そこで、若者定住に向けた雇用の取組は、新たな産業拠点として、滋賀山面工業団地と滋賀竜王工業団地の企業立地の進捗状況と稼働状況は。

① ハローワークや民間の求人サイトや高等学校との情報交換会などで雇用確保に努めてもらっている。

② 区民の方にも区長を通じて情報発信し、雇用促進に努めている。

③ 滋賀竜王工業団地は、令和3年7月に全7区画の分譲が完了。現在2社が操業開始、4社が建設工事中。滋賀山面工業団地は、10社のうち残り2社は今年度中に建設工事に着手予定。



小西 久次 議員

問 通学路のあり方について

答 安全に通学できるよう協議し
関係機関に働きかける



雨の日の小学生の通学状況

問 山之上地先の惣四郎川から町道中央通り線までの農道は通学路であるが、舗装ができていない。町内で唯一の砂利道であり、日々小・中学生が通学しており、雨天時等水たまりができ困っているが、子どもの安心安全のための通学路の舗装等の対応は。

答 交通安全だけでなく、防犯・防災の観点も併せ安全な道路を通学路として設定している。現実的には整備された通学路ばかりでなく保護者、学校とも協議し、より安全である道路を通学路としている。学校・PTAや自治会からの要望を基に年2回の通学路合同点検を実施し、安全な通学路となるよう対応している。今後、農道を管理されている自治会と通学路として自治会の両者に少しでも子どもたちが安全に通学できるよう協議、検討していただくよう学校や関係機関と連携し働きかけたい。



磯部 俊男 議員

問 アグリパーク竜王、妹背の里のふるさと納税対策について

答 町内資源を活かした体験型返礼品の開発等については施設との協議を進める



アグリパーク竜王



妹背の里

問 アグリパーク竜王、妹背の里における利用券、利用料の割引等をふるさと納税返礼品対象として検討してはどうか。

答 ふるさと納税返礼品や協力事業者の新規開拓については、寄附増加策の大きな柱と認識している。現ポータルサイトに掲載されている返礼品の稼働数は1900品目を超える状況にある。寄附額の7割を占める近江牛をはじめ、近江米や生活用品といった宅配でお楽しみいただける返礼品に加え、町で体験い

だけるフィールドアスレチック券やゴルフコースのプレー券なども用意している。道の駅アグリパーク竜王では、季節の果物、野菜をはじめBBQ食事チケットなど約30品目の返礼品を登録している。妹背の里の返礼品については、施設利用券や割引券など、竜王町を訪れ、体験していただくものを検討してきたが、詳細を詰め切れず実現には至っていない。引き続き、町内の資源を活かした体験型の返礼品開発について施設と協議を進めていく。

問 新型コロナウイルス感染症対策について

答 4回目ワクチン接種と基本的な感染症対策の実施

問 ①第6波の感染者の発生状況は。
②年代別ワクチン接種状況は。
③園、小中学校のマスク着用の対策は。

答 ①10歳未満から10歳代は8人から300人。20歳代から50歳代は35人から418人。60歳代以上は10人から101人に増加している。
②ワクチン接種率は5月末時点で5歳から11歳は14・8%。12歳から19歳は35%。20歳から64歳までは64・3%。65歳以上は94・9%となっている。4回目のワクチン接種は重症化

予防を目的とし、60歳以上の方および18歳以上で基礎疾患のある方等が対象。町内医療機関での個別接種は約960人分、公民館での集団接種は約3100人分を予定している。

③マスク着用での基本的な感染対策の重要性は変わることなく、引き続き地域の実情に応じた基本的な感染対策「3密回避、人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗い等の手指衛生、換気等」の徹底に努める。マスク着用を必要としない場合は、離れて行う運動、外遊び、自然観察、写生などの活動時は不要



元気に登校する子どもたち



問 今後の竜王町農業のあり方は

答 農業振興ビジョン基本構想をまとめ実施計画に着手

問 少子高齢化による離農が進む中、農村集落を守りながら住み続けられる持続あるまちづくりを進めるために。
①第六次総合計画基本施策によるまちの考えは。
②「農業振興ビジョン策定委員会」の現在の状況と進捗は。
③集落営農・認定農家と従来の家族経営の整合性は。
④農業委員の関わりは。



農村保全委員連絡協議会の様子

産地づくり」のため農業振興ビジョンの策定を進める。
②本年6月に基本構想案をまとめ、実施計画に着手し、本年度中の策定を目標としている。
③町の担い手の農地集積は本年3月で67・2%、農業経営者は60歳以上が75・3%で、経営体のうち63・4%が後継

者を確保していない。町ではどの経営体も重要な農業者と考えている。集落内での話し合いの場作りを支援する。
④地域代表として一人・農地プラン」の作成・実質化のために参画し、農業者の声を聞き反映していただくよう助言する。

①竜王農業は地域の基幹産業として、経済・地域コミュニティ維持・伝統文化の継承を果たしてきた。「農村環境整備」「担い手確保・育成」「高収益農業支援」「特色ある生産と

産地づくり」のため農業振興ビジョンの策定を進める。
②本年6月に基本構想案をまとめ、実施計画に着手し、本年度中の策定を目標としている。
③町の担い手の農地集積は本年3月で67・2%、農業経営者は60歳以上が75・3%で、経営体のうち63・4%が後継

者を確保していない。町ではどの経営体も重要な農業者と考えている。集落内での話し合いの場作りを支援する。
④地域代表として一人・農地プラン」の作成・実質化のために参画し、農業者の声を聞き反映していただくよう助言する。



澤田 満夫 議員

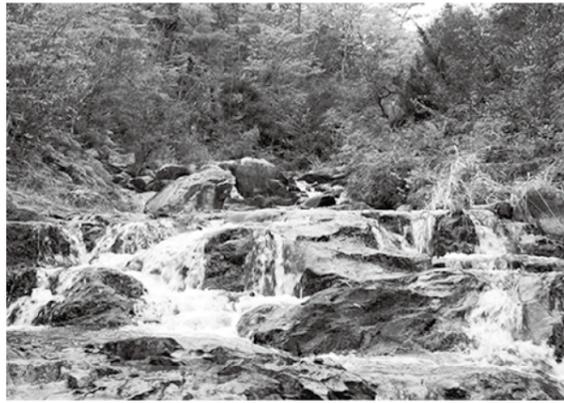


問 滋賀ロケーションオフィスを通じて竜王町の魅力発信を

答 風景や素材をブラッシュアップし強くPRしていく

問 町および観光協会による観光誘客事業は、本町の魅力発信のための施策である。県においても同様の趣旨の施策の一つで映像制作を誘致・支援する組織の滋賀ロケーションオフィスがあるが、本町の観光スポットも口ケ地として応募し、更に魅力発信をすべきではないか。

答 滋賀ロケーションオフィスには、本町も含め18市町が参加している。



鳴谷の清流と石床

令和3年度においては、企業のCMとカレンダーの制作に町内の施設や観光スポットが選ばれた。引き続き滋賀ロケーションオフィスから映像制作会社への積極的な情報提供をお願いし、事務局とも連携しながら新たな口ケ候補地の選定や口ケの実現に向け、一層の取組をしていく。その為にも竜王八景をはじめ本町ならではの風景や素材をブラッシュアップして強くPRしていく。

答 当該多目的広場は、令和元年11月に一般開放した。当時は、洪水調整池を開放するという観点から新たな財政負担を伴わない施設管理とし、積極的な町民への利用の働きかけは行わなかった。多目的広場の維持管理

問 滋賀竜王工業団地の集中豪雨時の流域貯留対策の1号調整池は、多目的広場としても活用できるよう整備された。しかし、調整池の役割を必要としない期間において、広場としての利用はほとんどない。今では草が一面に生えているが、今後の活用についての考えについているのか。



滋賀竜王工業団地調整池兼多目的広場

答 当該多目的広場は、令和元年11月に一般開放した。当時は、洪水調整池を開放するという観点から新たな財政負担を伴わない施設管理とし、積極的な町民への利用の働きかけは行わなかった。多目的広場の維持管理

5年の歳月が経ち今では草も生えてきた。改めて、全7区画の分譲が完了した今、企業協議会と維持管理方法について協議していく。



鎌田 勝治 議員



問 職員のモチベーション向上について

答 職員の本業務以外の頑張りも評価する仕組みを検討する

問 人事評価の観点から次の3点について町の見解を伺う。
① 行政事務改善委員会のメンバーに対して処遇改善を発足前に検討されたか。
② 検討されなかった場合の理由は。また今後には少なくとも処遇改善などの検討を行う機会を設ける考えはあるか。
③ 人事評価制度全般にわたり、内容の見直しは定期的の実施されているか。そうであればその内容は。

答 ① 発足前の検討はしていない。
② その理由としては、業務の一環とした活動であること、また地域活動や自己啓発活動など、二次的に業務への効果が期待できる活動も評価すべきである観点から見送った。今後については、職員の本業務以外の頑張りについても評価される



行政事務改善委員会の様子

仕組みについて検討していきたい。
③ 制度実施後、職員のあげた実績の給与面への反映を行うために、人事評価検討委員会で検討を重ねつつ勤勉手当の成績率への反映を実施してきた。あわせて、昇格時の判断には人事評価も参考としている。なお、主監以上で実施している評価結果の検証を受け、今年度後期からは、評価点の幅を見直し、頑張る職員が高評価を得て、やる気につなげていけるような制度の見直しを進めて参りたい。

問 竜王小学校新築移転に伴う基本設計は

答 具体的な内容を踏まえ進めていく



福田 優三 議員



問 令和4年3月末に策定された竜王小学校建設基本計画は4月より基本設計に入り、教育総務課から中心核整備課に業務が移ると聞いている。そこで次の3点について伺う。
① 竜王小学校建設基本設計の具体的な進め方は。
② 実際に設計業務を遂行する課が教育総務課と中心核整備課にまたがることとなるが連携は取れているのか。
③ 基本設計、実施設計等の業務のタイムスケジュールは。



竜王小学校建設基本設計

答 ① 竜王小学校建設基本設計

計実施設計業務の発注を行い、基本計画に込めた皆さんの思いを十分に活かしつつ、具体的な施設内容を決めていく。
② これまでも情報共有と連携を行ってきたので、今後も引き続き中心核整備課だけでなく、教育総務課、学校教育課、小学校の教員等も含め定期的に協議の場を設け、今後の事業推進につなげていきたい。
③ 今年度上半期に基本設計実施業務の発注を行い、年度末に基本設計の取りまとめを行い、令和5年度に実施設計を完了し、工事着手を予定している。

問 滋賀竜王工業団地の多目的広場の活用について

答 改めて企業協議会と維持管理方法を協議する

問 滋賀竜王工業団地の集中豪雨時の流域貯留対策の1号調整池は、多目的広場としても活用できるよう整備された。

しかし、調整池の役割を必要としない期間において、広場としての利用はほとんどない。今では草が一面に生えているが、今後の活用についての考えについているのか。

5年の歳月が経ち今では草も生えてきた。改めて、全7区画の分譲が完了した今、企業協議会と維持管理方法について協議していく。



森島 芳男 議員



問 ふるさと納税の取組について

答 寄付額増加策にチャレンジする

問 新型コロナウイルス感染症の長期化により、未だ経済が向上かず食料品なども高騰してきており、本町のふるさと納税への影響を懸念するところである。今年度の寄附額が前年度以上の成果を出す取組についての状況を伺う。

答 竜王町における返礼品を伴ったふるさと納税は、平成27年11月から始めており、できる限りの取組を行っているが制度における制約がある

中、いかに寄附額の増加につなげるか苦慮している。ふるさと納税を実施する地方自治体が増加する中、どのようにして竜王町の魅力を発信していくかが鍵となり、様々なツールを通じて竜王町ファンの創出、リーダーを獲得することで前年度以上の成果をあげよう努める。ふるさと納税活性化業務委託の中で寄附額増加策についてチャレンジする。また「ふるさと納税自動販売機」設置に向け、スピード感を持って対応する。



ふるさと納税自動販売機

問 定例会の一般質問で現在まで延べ6回の質問をしてきた。令和2年3月定例会の答弁は「本町としては、当地を住宅地整備の有力地として地区計画を都市計画決定しており、引き続き土地所有者と協議および情報共有を行い、住宅地整備の進捗を促していきたいと考えている。」とのことであった。そこで土地所有者との話し合いについて、現在の進捗を伺う。



IBMグラウンド跡地の現在の状況

問 IBMグラウンド跡地の現在の状況について

答 早期の事業実施を要望

答 令和3年10月19日に町幹部職員が土地所有者の本社へ出向いた。土地所有者である企業においては、分社化により体制を新しくされていたので、新たな役員に対し、進捗

状況の確認と早期の事業実施を要望してきた。直近では、令和4年5月18日に町長自らが土地所有者の本社へ赴き、早期の事業実施を改めて要望している。



中村 匡希 議員



問 指定管理者への行政指導のあり方は

答 連携強化に努めていく

問 本町の指定管理者の職員が私的流用で懲戒免職となったことに関連し次の点を伺う。
①この件で指定管理者への指導は。
②今後の指定管理者とのコミュニケーションのあり方は。
③5年間という指定期間は妥当か。

答 ①当該事案の発生を受け、事態の把握と原因究明により、組織として厳正な対応をした。当該事案の発生は、経理処理を担当職員が1人で行っていたためチェック機能が十分に機能していなかったことが要因の一つであると考えている。現場の体制や事務の流れについて改めて確認を行い、チェック機能が十分に機能する組織体制を構築されるように厳重注意をした。また、

サービスや倫理意識の低下が発生していたこととは否めず、研修等の

様々な機会を通じてコンプライアンスの徹底を図るようあわせて厳重注意をした。
②年2回の連絡会を開催することとし、再発防止と更なる住民サービスの向上と経費の縮減等を図るため連携強化に努める。
③指定管理者の能力が十分発揮され、より良いサービスを提供するためには適切な期間と考

えている。

問 町のローマ字表記を「Ryuoh」に統一する必要性は

答 広く意見を聞いて見直しを行いたい

としている。議員の指摘を受け、国等と表記を統一する必要性やその影響を精査し、広く意見を聞き、早期に見直しを行いたいと考えている。

問 国や県では地名のローマ字表記は「ヘボン式」を採用しており「竜王」は「Ryuo」と表記される。内閣訓令は地名等のローマ字表記はヘボン式によると定めており、公の機関である竜王町役場が非ヘボン式の「Ryuoh」を用いるのは不適當ではないか。外国からのインバウンド需要においては、同一の地名として認識されない恐れもあるが、見解を伺う。

答 「Ryuoh」を用いた理由は分からないが、町ホームページでは平成9年から使用している。本年策定のシタイプロモーションのガイドラインでも町民に広く定着している「Ryuoh」を使用する



外国人には違って見える

牟礼公園



表紙

「竜王新古今八景」とは、町内各地に根付く、風習・人々の生業・現在まで受け継がれてきた地域の価値観・竜王を形つくる新しい顔を意識した心象風景です。

4〜7世紀の日本は、畿内を中心に豪族たちが群雄割拠した時代で、隣接する近江の当地も当時を偲ぶ多数の古墳（墓）が点在しています。また、町内には、朝鮮半島から先進技術集団も定住しましたが、その証として「弓削、綾戸、鏡、須恵、薬師」など、渡来人由来の地名として残っています。

一方、6世紀の仏教伝来を機に、人々の心の拠り所としての崇拜対象は、それまでの自然から寺院・仏像へと変化しました。これに伴い、町内には7世紀以降、白鳳時代には雪野山の雪野寺跡、鏡山中腹の雲冠寺跡、山麓の西光寺跡等多くの寺院が建立され、また、各地の寺院にある仏像群が今に伝えられています。

往古来今、竜王での様々な姿は、今の私たちに地域遺産として刻み込まれています。

なお、裏表紙の「竜王八景」は、小口の牟礼公園です。

編集後記

猛暑、真つ盛りとなりました。例年この時期は熱中症が多発し救急搬送者が急増します。一方、新型コロナウイルス感染状況は、やや改善されたものの、今後コロナと熱中症の予防行動が重要であると考えます。

さて、「議会だより」は、昭和43年に創刊され、この度200号を迎えました。この間、本誌は議会の動きを町民の皆さんにお知らせするため発行されてきました。議会広報特別委員会では、今後ともこの機会に一層皆さんが議会を身近に感じて頂けるよう工夫し、編集していきたいと思っております。ご支援を宜しくお願い致します。

議会広報特別委員会

- 委員長 鎌田 勝治
- 副委員長 森島 芳男
- 委員 澤田 満夫
- 委員 尾川幸左衛門
- 委員 磯部 俊男
- 委員 貴多 正幸

発行・竜王町議会
編集・議会広報特別委員会

〒520012592 滋賀県蒲生郡竜王町小口3
☎(0748)5813713